



# 学びの庭

甲府市立甲運小学校  
学校だより第7号  
平成30年9月25日  
(文責：勝村 正樹)



## 平成30年度全国学力・学習状況調査と 質問紙調査の結果についてお知らせします



平成30年度の全国学力・学習状況調査を4月17日、6年生を対象に国語・算数・理科の学力・学習状況調査と児童質問紙調査とに分けて行いました。

全国学力・学習状況調査結果の山梨県の平均と全国の平均は次のとおりです。

	国語A正答率	国語B正答率	算数A正答率	算数B正答率	理科正答率
全国平均	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
県平均	71.0	54.0	62.0	50.0	60.0

\*表内の数字は%

### 平成30年度全国学力・学習状況調査結果の分析(国語)

[詳細について]

#### 国語A(主として「知識」に関する問題)

「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す」では、「図書館への行き方の説明として適切なものを選択する」問題でしたが、高い正答率でした。また、「日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う」では、「心を打たれる」という表現の意味と使い方を問う問題でしたが、これも高い正答率でした。

「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」では、主語・述語とのつながりが合っていない文を選んで、その文を正しく書き直す問題でした。この問題については正答率が低く、課題が認められました。「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」では、日常よく使われる敬語を選ぶ問題が出題されましたが、正答率がやや低く、課題が残りしました。漢字の問題では、「ノートで使う漢字と等しい漢字をそれぞれ3つの中から選ぶ」という形での出題でした。その中で特に、「せっ極的」の「せっ」と同じ漢字が使われる語句として「面せき」の「せき」を選ぶ問題の正答率が低いことが課題となりました。今年度の漢字の問題も、調査問題の終わりに設定されていて最後までやり切れなかったためか、無解答率が高かったことも今後の課題です。



#### 国語B(主として「活用」に関する問題)

「話し合いの参加者として、質問の意図を捉える」問題として、何のために質問したのかを問うものが出ましたが、わりあいによくできていました。

「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える」問題での正答率は、全国・県平均と比べると低くなっていて今後の課題です。文章中に囲みの部分があるのか、その理由を答える問題での正答率が低くなっていました。

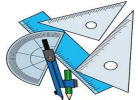
### 平成30年度全国学力・学習状況調査結果の分析(算数)

[詳細について]

#### 算数A(主として「知識」に関する問題)

「3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く」問題については、よくできていました。また、「面積がそろっている2つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ」問題についても、高い正答率でした。

一方で、「2つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ」問題では、誤答が目立ちました。「円周率を求める式として正しいものを選ぶ」問題でも、正答率が低くなっています。



## 算数B(主として「活用」に関する問題)

「グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く」問題についての正答率は、全国平均・県平均とほぼ同じでしたが、無解答率が高いことが課題となりました。「1つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ」問題でも、全国平均・県平均とほぼ同じ正答率となりました。

「32, 40」の2つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す」「横に並んでいる7つの数について、示された表現方法を適用して書く」「横の長さが7分の黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く」問題については、正答率が低く、無解答率が高くなっていました。

## 平成30年度全国学力・学習状況調査結果の分析(理科)

[詳細について]



「腕を曲げることでできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く」問題の正答率は高く、全国平均・県平均を上回りました。「海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ」問題についても高い正答率で、全国平均・県平均とほぼ同等でした。

地球に関する問題で、「一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く」「上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ」では、どちらも全国平均・県平均を下回ってしまいました。

これらの結果を受け、今後学校では、

- ・週3回行っている朝学習をよりいっそう充実させていきます。
- ・各学年ごとに「甲府スタイルの授業」を目指して研究を進めていきます。さらにそれぞれの教職員が取り組む研究教科以外にも、情報交換を行う中で指導力の向上を図ります。
- ・「児童同士の学びあい」の成立を意図した授業内での意見交流場면을積極的に設定していきます。
- ・全国学力学習状況調査の結果についての学習会を校内研究の時間を利用して行い、いかにして授業に反映させていくかを全職員で検討し、実践していきます。



6年では、具体的な取り組みとして

- ・国語や算数では、単元ごとに学習内容の定着を図る問題に取り組みせ、理解が十分でない箇所については、詳しく解説したり、練習問題に取り組みせたりしていきます。
- ・ノートの取り方については、めあてやまとめを意識した「甲府スタイルの授業」を取り入れ、より効果的な手法を実践し、相互に共有できる機会を設けていきます。

## 平成30年度全国学力・学習状況調査結果の分析(質問紙)

児童質問紙調査では、子どもたちの生活習慣やものの考え方についての質問がありました。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は、「そのとおりだと思う」と答えた児童の割合が高い結果となりました。ボランティアに向ける児童の意識が高いことがわかりました。また、「朝食を毎日食べていますか」では、「よく食べている」と答えた児童が非常に多く、生活習慣づくりに向けた保護者の意識の高さを感じる結果となりました。「家で、学校の宿題をしますか」についても「よくしている」の回答が多くありました。このことから、家庭での学習習慣づくりが進みつつあることを実感しています。



学校ではこれらの結果を踏まえ、子どもたちがいろいろな場面で成功体験を積み重ねていけるような授業や行事を工夫し、自分に自信の持てる子どもたちを育てていきたいと考えています。生活習慣や学習習慣は、ご家庭の理解や協力がなければ確立できません。今後とも家庭と学校が連携して子どもたちの成長を支えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

なお、詳しいことについては、本校のホームページに掲載しますので、ご覧ください。